

D 上級コース群（関西）

概要

このコース群は、一流の専門家を講師とし、争訟、審判決例、講義形式としては最高水準のコースで、Cコース群(中級)修了者またはそれに準ずる実力を有する方が、より高度な実力を養成するのに最適です。

D6 受講者の声

慣れない用語や考え方がありましたが、身近な例に置き換え、かみ砕いて説明して頂いたので、よく理解できました。判例についても、ポイントを丁寧に解説して頂いたので、非常にためになりました。

D15 受講者の声

身近な事例や模擬交渉を通じて、自分の意見だけでなく他人の意見も知ることができる貴重な研修でした。講義と演習がベストなバランスで構成されており、あっという間に時間が過ぎてしまいました。

ご参考

◆ 2017 年度開催臨時研修 ～Dコース群関連～

R3「最近の裁判例からみる知的財産権訴訟の審理と実情」

関東・関西・東海

R12「わかりやすい特許判例の読み方」

関東・関西

※ 2018 年度臨時研修の開催については、
当会より配信しております JIPA トレーニングマガジンでもご案内しております。

◆ 下記コースは移行しました

■ D5「国際契約」 → WR 2「国際契約プレクティス」

■ D7「米国特許訴訟」 → WU 2「米国特許訴訟」

関西	研修会場: OMMビル 2階	募集定員: 100名
D01	特・実、審判・審決取消訴訟	初回開催日の 2週間前まで申込可能です。 お申込みはこちらから！

※日本弁理士会継続研修対象コース

概要

本コースは、審判・審決取消訴訟の制度全般およびその実務並びに最近の審判決例について、実務経験豊かな講師により講義をしますので、審判及び審決取消訴訟関係の実務を既に行っている方にも、また今後行うであろう方にも大変有意義な内容です。

開催日(4日間)		講義科目	講師
10/4(木)	午前	1. 審判に関する法制度と実務 不服審判、無効審判、訂正請求	弁護士法人関西法律特許事務所 弁護士 松本 司 氏
	午後	2. 最近の注目審判決例の解説 I (化学)	早坂・神谷国際特許事務所 弁理士 神谷 恵理子 氏
11/5(月)	午前	3. 審決取消訴訟に関する法制度と実務 I 手続概要、訴訟提起、請求原因	弁護士法人関西法律特許事務所 弁護士 松本 司 氏
	午後	4. 最近の注目審判決例の解説 I (電機・機械)	特許業務法人いしい特許事務所 弁理士 西 博幸 氏
12/3(月)	午前	5. 審決取消訴訟に関する法制度と実務 II 発明の要旨認定、新規性・進歩性判断	弁護士法人関西法律特許事務所 弁護士 松本 司 氏
	午後	6. 最近の注目審判決例の解説 II (化学)	早坂・神谷国際特許事務所 弁理士 神谷 恵理子 氏
1/7(月)	午前	7. 審決取消訴訟に関する法制度と実務 III 審理、判決、侵害訴訟との関係	弁護士法人関西法律特許事務所 弁護士 松本 司 氏
	午後	8. 最近の注目審判決例の解説 II (電気・機械)	特許業務法人いしい特許事務所 弁理士 西 博幸 氏

申込コード: D01-K1

1. 審判に関する法制度と実務 不服審判、無効審判、訂正請求

不服審判・無効審判・訂正請求の法制度および方式審査、審理手続きなどの各種手続き方法など審判制度全般とその実務について解説します。

2. 6. 最近の注目審判決例の解説 (化学)

化学分野における最近の注目審判決例を採りあげて、その争点や裁判所の判断など判決例の重要ポイントを実務的な視点で詳細に解説します。

3. 5. 7. 審決取消訴訟に関する法制度と実務

審決取消訴訟の法制度および訴訟提起、特許請求の範囲の解釈、訴訟審理、判決の効力と拘束力、上告手続きなどの各種実務手続きについて、最近の審理傾向にも触れつつわかりやすく解説します。

4. 8. 最近の注目審判決例の解説 II (電機・機械)

知財高裁については進歩性が厳し過ぎるとされた時期もありましたが、近年、プロパテント的傾向で安定し、審査実務も後追いしています。但し、個々の事件を見ると裁判所による違いも見られます。本講義は、電機・機械におけるボーダー的な事件を紹介し、実務上の指針となるよう解説します。

※日本弁理士会継続研修対象コース

概要

企業のブランドやペットネームを巡る紛争および商標侵害事件は近時多様化し益々複雑になる傾向にあります。

このコースでは、重要な判決例に基づいて、商標法および不正競争防止法の理論と実際ならびに商標事件・不競法事件への企業の戦略的な対応について講義します。

開催日(4日間)		講義科目	講師
10/2(火)	午前	1. 商標に関する審判決例の解説	特許業務法人深見特許事務所 弁理士 齋藤 恵 氏
	午後	商標に関する審判決例の解説	
11/6(火)	午前	商標に関する審判決例の解説	特許業務法人深見特許事務所 弁理士 齋藤 恵 氏
	午後	2. 不正競争防止法に関する重要な判決例の解説	
12/11(火)	午前	不正競争防止法に関する重要な判決例の解説	プログレ法律特許事務所 弁護士 塩田 千恵子 氏
	午後	不正競争防止法に関する重要な判決例の解説	
1/10(木)	午前	3. 商標事件・不競法事件の企業戦略と実務対応	東京都知的財産総合センター 小山 雅夫 氏
	午後	商標事件・不競法事件の企業戦略と実務対応	

申込コード：D03-K1

1. 商標に関する審判決例の解説

商標の実務に必須の類否判断、顕著性判断、商標の使用に関する判断基準等について、最新の事例を含む豊富な判決例の紹介を交えて実務ポイントを解説します。

2. 不正競争防止法に関する重要な判決例の解説

不正競争防止法における周知著名商品等表示の冒用行為、商品形態の模倣行為、営業誹謗行為などについて、周辺法との関連分野も含めて判決例のポイントを解説します。

更に、不正競争防止法に関連する訴訟事件を題材として、受講生による議論の機会を設けた演習コーナーを設けています。

3. 商標事件・不競法事件の企業戦略と実務対応

企業の事業活動に関連して様々な商標事件や不正競争防止法事件が発生しており、この種の事件に適切に対応することは経営上極めて重要になります。企業の重要なブランドやペットネームの権利取得上の諸問題および模倣事件等々への対応にかかる戦略と実務について、事例紹介を交えて解説します。

関西	研修会場: OMMビル 2階	募集定員: 100名
D06	特許侵害訴訟	初回開催日の 2週間前まで申込可能です。 お申込みはこちらから！

※日本弁理士会継続研修対象コース

概要

知的財産権が重視される今日、特許をめぐる係争の数も増え、話題に挙がるが多くなっております。本コースは、企業において特許係争の処理、および予防業務に携わる知的財産部門の方々を中心に、特許侵害訴訟に興味のある方々を対象として、特許侵害訴訟において第一線で活躍されている弁護士の方々が要点および実務における必要事項をご講義します。

最新の法改正や裁判例の動向の紹介と併せて特許侵害訴訟の全体像をつかんだ後、実務に欠かせない訴訟手続の重要ポイントについて各先生方が講義を行う内容となっております。

開催日 (2日間)		講義科目	講師
10/3(水)	午前	1. 特許権侵害訴訟概論 ・審理手続の概要(管轄を含む)	辻法律特許事務所 弁護士 辻 淳子 氏
	午後	2. 特許侵害訴訟手続(1) ・特許侵害訴訟を支配するルール :「要件事実」と「弁論主義」等	岩坪総合法律事務所 弁護士 岩坪 哲 氏
11/9(金)	午前	3. 特許侵害訴訟手続 (2) ・特許侵害訴訟の訴状と答弁書、審理	岩坪総合法律事務所 弁護士 岩坪 哲 氏
	午後	4. 特許侵害訴訟手続 (3) ・侵害成否を巡る論点(クレーム解釈)	岩坪総合法律事務所 弁護士 岩坪 哲 氏
11/30(金)	午前	5. 特許侵害訴訟手続 (4) ・侵害成否を巡る論点(均等論)	久田原・久世 法律事務所 弁護士 久世 勝之 氏
	午後	・侵害成否を巡る論点(間接侵害、先使用权、消尽)	
1/11(金)	午前	6. 特許侵害訴訟手続 (5) ・救済措置(差止め、損害賠償、不当利得返還請求)	久田原・久世 法律事務所 弁護士 久世 勝之 氏
	午後	7. 特許侵害訴訟手続 (6) ・仮処分、和解、証拠収集・無効の抗弁と審判制度	

*このコースは広島地区でのサテライト研修会を開催します。

申込コード : D06-K1

1. 特許権侵害訴訟概論

民事訴訟手続の構造についての基本的知識の確認や他の知的財産侵害訴訟等との比較を含めて特許侵害訴訟の特徴を説明して、その全体像をつかんでいただくとともに、本コース受講の前提となる知識を共有することを狙いとしします。最近の法改正や裁判例の動向も紹介します。

2. 特許権侵害訴訟手続(1)

特許侵害訴訟を含む民事訴訟は、法律の要件である「要件事実」の有無を裁判所が認定する手続です。本講では民事訴訟手続における最重要概念である要件事実、また、当事者に訴訟資料提出の権限と責任を持たせる「弁論主義」、その派生ルールである「主張責任」等の民事訴訟のロジックの真髓について説明します。

3. 特許権侵害訴訟手続(2)

本講では、特許侵害訴訟における審理目標であり確定判決が及ぶ効力を画する概念である「訴訟物」についての理解を前提に、訴状に記載すべき「請求の趣旨」、「請求の原因」、被告が答弁書に記載すべき「答弁の趣旨」について説明を加え、特許侵害訴訟がどのように審理されるかを具体的に説明します。

4. 特許権侵害訴訟手続(3)

特許権侵害訴訟においては、数々の論点が争いになりますが、本講では最も重要な論点である「クレーム解釈」にフォーカスを当て、原則論（特許請求の範囲優先の原則）、明細書の参酌の原則、機能的クレーム、プロダクト・バイ・プロセス・クレームの解釈といった重要論点について説明を加えます。

5. 特許権侵害訴訟手続(4)

この講義の内容は、文言侵害以外の侵害の成否についてです。最初の均等論では、先般の知財高裁判決も踏まえ、実践的なお話をします。残る論点（間接侵害・先使用・消尽）についても、判例等の到達点についてポイントを押さえ実務で思い出せるようお伝えします。

6. 特許侵害訴訟手続(5)

この講義の内容は、特許権侵害により原告が裁判所に求める請求・救済措置である、差止と損害賠償等の金銭請求です。差止についてどのような差止を求めることができるのかを、損害賠償及び不当利得返還請求といった金銭的請求について民法を踏まえた特許法の規定の理解と利用をお話いたします。

7. 特許侵害訴訟手続(6)

本コース最終となる本講義では、実務において柔軟な対応をとるために理解しておくべき仮処分、和解等について解説を行います。また、特許権侵害訴訟と並走することの多い無効審判及び審決取消訴訟の留意点について説明します。

関西	研修会場:協会関西事務所	募集定員:40名
D15	交渉学(応用)	初回開催日の 2週間前まで申込可能です。 お申込みはこちらから！

概要

本コースは、C 1 5「交渉学(入門)」の既受講者を対象として想定し、演習の比重を高めて知財実務に直接役立つ交渉スキルを実践的に習得させることを目指しています。本研修では、交渉力を鍛える上で不可欠となる3つの能力(論理的思考力、交渉戦略立案能力、交渉マネジメント能力)について、inputは最小限に留め、ケースに基づいた模擬交渉(ロールプレイ)やディスカッションそしてフィードバックを組み合わせた体験的かつ実践的な講義展開によって習得していただきます。演習では複数のケースを採り上げますが、最新トピックスを取り込んだ知財を絡めたビジネス交渉の事例を扱います。交渉学に関する基礎的な知識をお持ちの方で、さらに実践的な知財交渉スキルを学びたい方に好適な内容となっています。

(本コースは、C 1 5「交渉学(入門)」の続編として開催します。このため、受講対象者は「交渉学(入門)」を受講済みか、それと同程度の知識・経験をお持ちの方に限らせていただきます。)

開催日(1日間)		講義科目	講師
2/15(金)	午前	1. 交渉学の概要と知財ビジネス 交渉のマネジメント	東京富士大学 教授 隅田 浩司 氏
	午後	2. 基本的な取引交渉(演習) 3. 事業提携交渉(演習)	

申込コード : D15-K1

1. 交渉学の概要と知財ビジネス交渉のマネジメント

- ・交渉学への招待 ・論理的思考と交渉力 ・事前準備の方法論
- ・交渉のマネジメント ・交渉における心理バイアスとその克服

2. 基本的な取引交渉【演習】模擬交渉 Part 1 (一般ビジネス事例)

- ・事前準備(ケースの読み込み、グループでの戦略立案) ・1対1のロールプレイ
- ・振り返り(交渉相手、グループ) ・質疑応答 ・講評

3. 事業提携交渉【演習】模擬交渉 Part 2 (知財が関連する事例)

- ・事前準備(ケースの読み込み、グループでの戦略立案) ・1対1のロールプレイ
- ・交渉相手との振り返り ・グループディスカッション ・質疑応答 ・総括